

あなたの近所、学校…

# 騒音は大丈夫？

南風時(15~19時)

1時間あたり  
発着合計90回  
を想定

★これまで国交省は、原則、飛行機は海から入り海に出ると約束しています。



国交省HP「羽田空港のこれから」説明資料をもとに、おおよその提案内容をまとめています。  
※騒音値は、国土交通省が、過去のデータベースから推計した最大値。実際には重量や気象条件により異なる場合があります。

# 騒音

中面へ

# 落下物

航空機から漏れた水が上空で凍って、それが着陸直前に落ちてくる場合があります。こうした氷の塊は、航空機が着陸のために胴体から車輪を出す、いわゆる足下げの時に落ちてくることが多いと言われています。成田で2000年に19件発生し、その後「車輪を海の上で出す」対策がとられていますが、新飛行ルートでは、どこで車輪を出し落下物がどうなるか心配です。

# 大気汚染

窒素酸化物

光化学オキシダント

ベンゼン

硫黄酸化物

浮遊粒子状物質

空港周辺は安全の観点から緩衝帯が設けられるなど、  
密集市街地を低空で飛行機が飛ぶことは、外国でもほとんど例をみないことです。

監修 航空評論家 秀島一生

03-5744-1650 03-5388-3288

大田区 空港まちづくり課 東京都 都市基盤部 交通企画課

03-5253-8722

意見を言うならここへ 国交省 航空局 環境・地域振興課

E-mail haneda2015.10.31@gmail.com

TEL 03-3741-0909

羽田空港増便問題を考える会

航空機の離陸後3分と着陸前8分の、合計11分間は、【クリティカルイレブンミニッツ】と呼ばれる。雪や突風などの天候の影響、鳥の衝突、操縦が自動操作から手動操作に切り替わることによるヒューマンエラーなど、危険な要素が増加し、事故が起こりやすくなる時間帯であると言われています。

☑ 飛行機事故は離陸後3分と、着陸前8分に一番多い

安全や騒音に加え、敗戦後のGHQからの強制退去命令などの歴史の経緯もあり、国と大田区の間には飛行機の飛び方にかかわる取り決めがありますが、新たな飛行ルート変更でこの約束がどうなるか明らかになっていません。

☑ 国と大田区の約束はどうなる？

羽田空港増便と飛行ルート変更問題

安全、騒音は本当に大丈夫？

あなたの家の上を

# 低空で飛行機が飛ぶ！

国交省は、増便と飛行ルート変更で都心上空を  
低空で飛行機が飛ぶ計画を進めています。\*

\*早ければ今年夏までに決まってしまう。